

経営比較分析表（令和6年度決算）

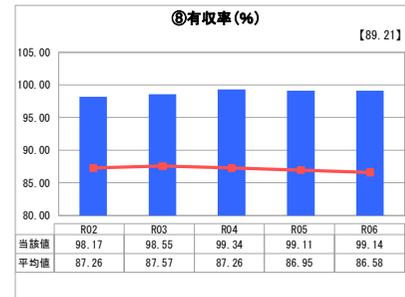
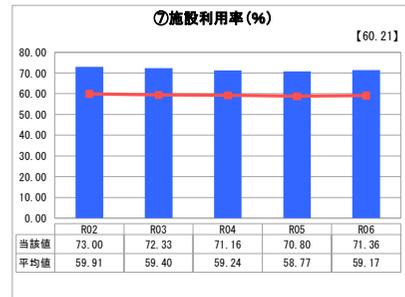
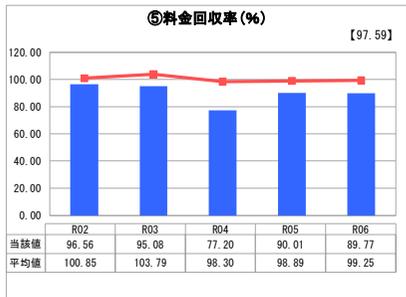
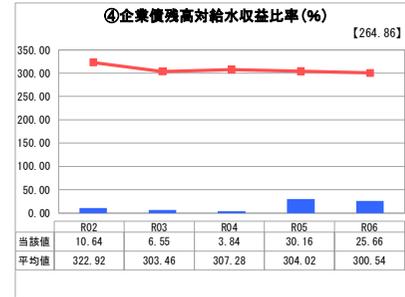
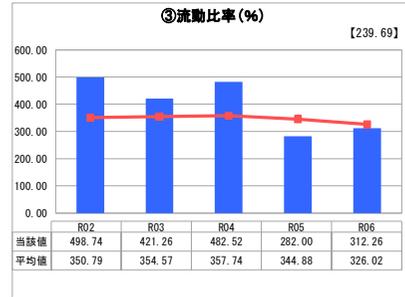
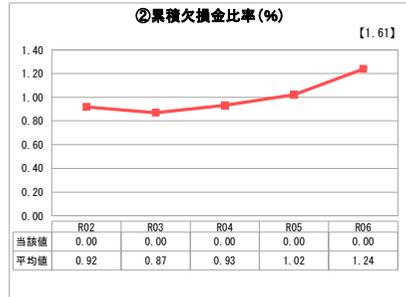
埼玉県 和光市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	94.54	100.00	2,051	

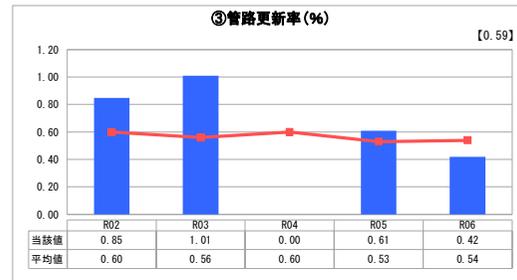
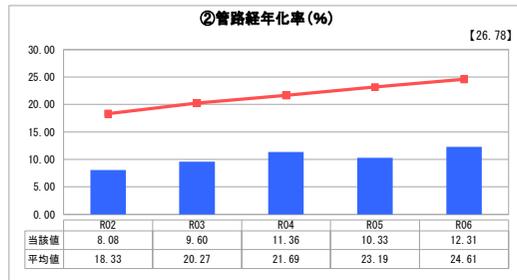
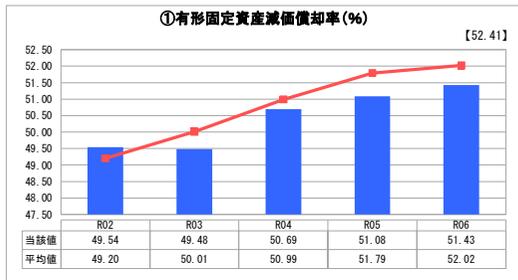
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
84,890	11.04	7,689.31
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
84,675	10.40	8,141.83

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①類似団体及び全国平均値を下回る水準であるが、100%を超えていることから、収益で費用を賄っており、当市の経営状況は健全であるといえる。さらに、令和6年度に水道料金改定をしたため、今後改善していくものと判断している。

②0.00%であり、欠損金は発生していない。当市の経営状況は健全であるといえる。

③100%を超えており、短期債務に対する十分な支払能力を有しているといえる。資金の効率的運用の観点からは、適正な水準が確保されていると判断している。

④類似団体及び全国平均値を大幅に下回っており、経営に及ぼす影響は少ないといえる。しかし、世代間負担の公平性の観点からは、単純に低ければ良いというわけではないので、バランスの良い資金計画を検討する必要がある。

⑤100%を下回っており、給水費用を給水収益で賄っておらず、それ以外の収入で賄っていることを示している。

⑥類似団体及び全国平均値を下回り、他団体に比べて有収水量1m³あたりの費用が低いものといえる。

⑦類似団体及び全国平均値を上回り、効率的に施設を利用してきている状況である。

⑧類似団体及び全国平均値を上回り、高水準にあるといえる。この水準を維持していくことが重要である。

2. 老朽化の状況について

①類似団体及び全国平均値と同程度の水準。ただし、直近の指標は上昇傾向にあり、資産の老朽化が進みつつある状況である。アセットマネジメントによる長期の更新需要の把握と、財源確保策を検討する必要がある。

②類似団体及び全国平均値を大幅に下回っており、現状では管路の老朽化が進んでいないといえる。しかし、増加傾向にあることから、注視していく必要がある。

③類似団体及び全国平均値をやや下回っているが、今後も継続して管路更新を行っていく予定である。

※令和4年度当該値が0.00%となっているが、確定後の正確な数値は0.59%である。

全体総括

当市は現状において健全な経営状況を維持しているといえる。

さらに、有形固定資産減価償却率及び管路経年率から施設や設備などの資産の経年・老朽化が進行していることがわかるため、今後はそれらに対する更新投資の増加が必要になると考えられる。

令和5年度に見直しを行った水道事業経営戦略に基づき、今後も経営の健全化や経営基盤の強化を図っていく。

経営比較分析表（令和6年度決算）

埼玉県 和光市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ba	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)
-	82.91	97.21	95.32	1,262

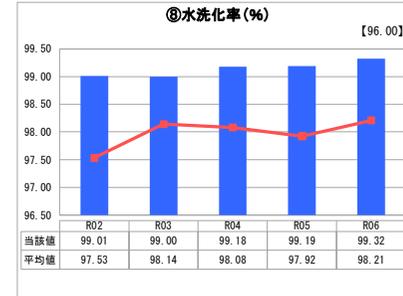
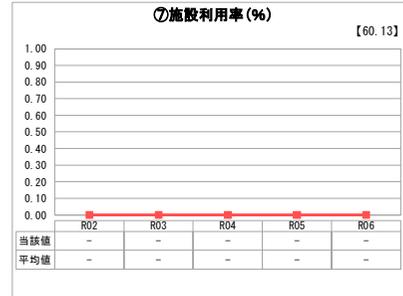
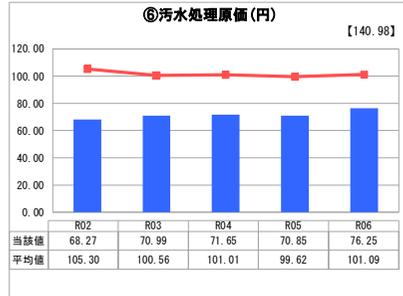
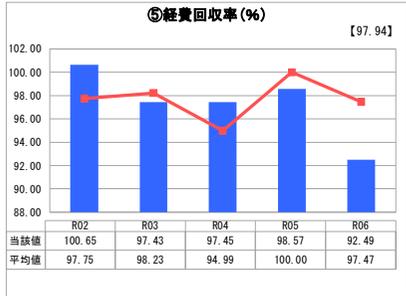
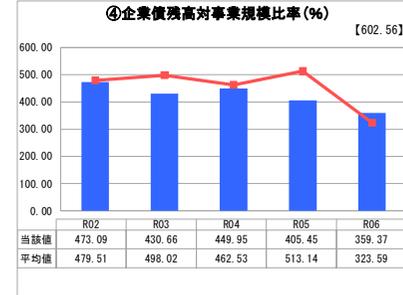
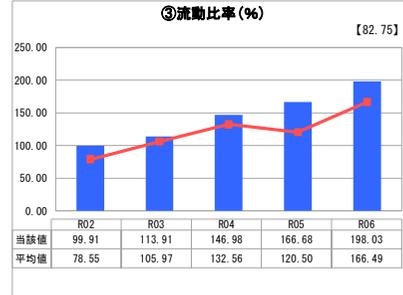
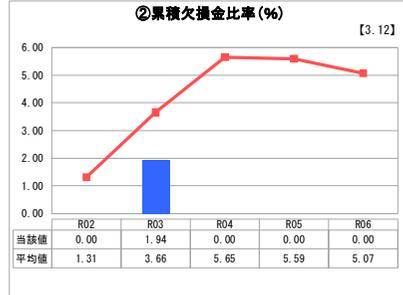
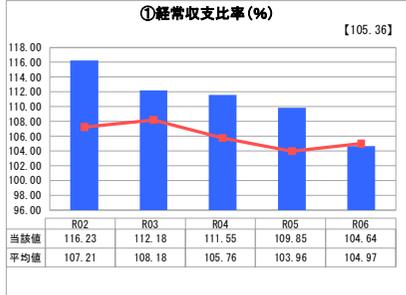
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
84,890	11.04	7,689.31
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
82,311	7.70	10,689.74

グラフ凡例

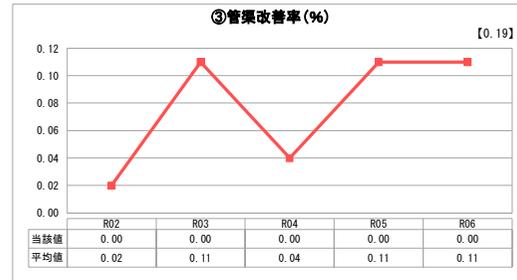
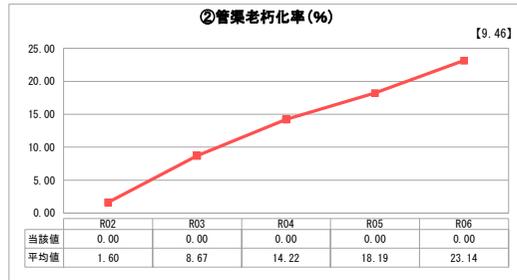
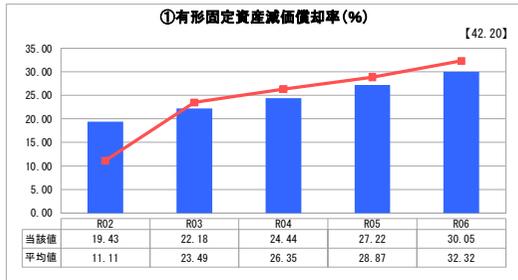
- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)

【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は類似団体及び全国平均値を下回ったが、100%を超えているため収益で費用を賄っており、健全な経営が行われているといえる。また、② 累積欠損金比率については、欠損金が発生していないため、0.00%となった。

③ 流動比率は上昇傾向にあり類似団体及び全国平均値を上回り、健全であると判断している。

④ 企業債務高対事業規模比率については減少傾向にあり、当市の経営状況はほぼ健全であると判断している。

⑤ 経費回収率については、類似団体及び全国平均値を大幅に下回ったため、支出の適正化や、使用料収入の見直しを進め健全な事業運営を進めていく必要がある。

⑥ 汚水処理原価は、類似団体及び全国平均値を大幅に下回っている。

⑧ 水洗化率については、類似団体及び全国平均値を大幅に上回っている。

当市は、今後も土地区画整理事業の進展に伴い、住宅等の増加が見込まれるため、下水道への接続及び正しい使い方等について啓発を進めていく必要があると考えている。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は上昇傾向にあるが、類似団体及び全国平均値を下回っている。② 管渠老朽化率は0%を維持していることから、老朽化の度合いは類似団体等よりも低いことが分かる。

③ 管渠改善率は0%と類似団体及び全国平均値を下回っている。

老朽化の対策としては、布設後の経過年数、施設の重要度及び管路を布設している道路の交通量等を勘案して、早期かつ計画的に、修繕、改築及び更新等を実施していかなくてはならないが、当市では管路内部のカメラ調査を行い、その調査結果に基づき適切に補修を進めている。今後は、令和7年度策定予定のストックマネジメント計画に基づき老朽化対策を進めていく。

全体総括

各指標について、類似団体及び全国平均値を下回るものがあるが、現状においては健全な経営状況を維持している。しかし、今後は経費回収率を上昇させ、経営改善していく必要がある。

支出については、予算内容を見直し、工事内容を精査した上で適切に事業を進めていく。

収入については、人口の増加による使用料収入の増加を見込むことができることや、他会計からの繰入金の見直しを行うほか、使用料金の見直しを進めていく必要がある。

また、令和元年度に策定した下水道事業経営戦略の見直しを実施し、投資・財政計画に基づき、今後予定している総合地盤対策業務への取組及びストックマネジメント計画の策定等に沿った取組を計画的かつ効率的に推進し、経営基盤の強化を図っていく方針である。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみを類似団体平均値及び全国平均を算出しています。